

文教厚生委員会の主な審査内容

教育委員会

長崎県遠隔教育センター(仮称)開設準備事業費は、1学年2クラスの9校に、受信用の機材を整備し、効果や課題の検証や学校のニーズに応じたコンテンツ開発・配信の試行を行う。また、当面はウェブ会議システムで実施するが、将来的には、学校間において**バーチャル技術やメタバース空間等を活用**した、よりリアルな交流についても研究していく。

空飛ぶ未来を拓くドローンワールドプロジェクト費は、ドローンの組立やプログラミング、操縦等の基本を学ぶ入門講座においては、県内の高校に募集し定員30名程度、また、専門的な知識・技能を学ぶ専門講座においては、専門高校16校、約800名を対象としている。

メンタルヘルス研修の1コマ

皆さんは、どんな時にストレスを感じますか。
「ストレスを感じる基本は
『不安』と『イライラ』です。
ストレスを解消する方法は人それぞれ。
実際に試してみて、自分に合った方法をより多く見つけてください



あいばあつ子の活動報告



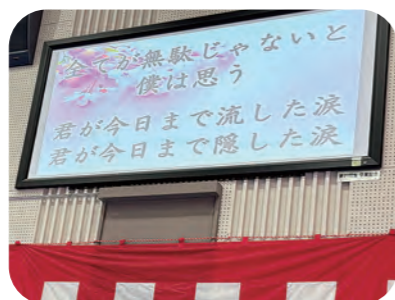
2月9日 長崎県女性議員と県知事・副知事と懇談会



2月28日 ピンクシャツデー
※ピンクシャツデーは、カナダの高校生がはじめた「いじめ反対」運動です



3月1日 母校 長崎県立長崎西高等学校卒業式(来賓として参加しました)



3月1日 母校 長崎県立長崎西高等学校卒業式 サプライズ



3月21日 県知事より感謝状をいただきました!



3月5日 緑の募金街頭活動



↑
緑の募金
街頭活動
の様子



3月15日 長崎県手話言語条例成立

笑顔で暮らせる長崎県へ!

長崎県議会議員

あいばあつ子 議会だより



No.17 発行責任者: 饗庭敦子 発行: 令和6年4月

桜の蕾も、夢と希望を持って少しずつ膨らみ始め、柔らかく暖かな春の香りを優しく運んでくるこの季節に、新しい世界へと、たくさんの夢と希望と期待を胸に一步を踏み出す方も多いでしょう。今年は、制限なしの卒業式、入学式が挙行され私も参加しました。母校の長崎県立長崎西高校での卒業式、それぞれの皆さんの輝かしい笑顔がとても眩しかったです。これからも素晴らしい出会いがあると思います。

書家の相田みつをさんの書に「そのときの出逢いが人生を根底から変えることがある。よき出逢いを」というものがあります。私も議員になり多くの出会いがあり感謝の日々です。今後とも大切にしていきたいと改めて感じています。

さて、長崎県では新幹線の開業や「長崎スタジアムシティプロジェクト」など100年に1度の変革期を迎えています。この「変わりゆく姿」をさらなる県の地域活性化に結びつけるために「長崎県の近未来像」を策定し、県内各地域における様々なまちづくりやプロジェクトをご紹介します。また新しい長崎県づくりのビジョン「未来大国」について、私は、2月定例会の予算総括質疑で県民の皆さんへの浸透を求めてまいりました。

今後とも皆様の声を県政に届け、誰もが笑顔で暮らせる長崎県、誰一人取り残さない社会の実現を目指して、子どもの未来のため、誰もが生きやすい社会になるように、誠心誠意、取り組んでまいります。今後ともご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

また皆様の不安やストレス、お困りごとは、どんな事でも「あいばあつ子」へご相談下さい。皆様の声を県政へつないでまいります。

ご相談はお気軽に

あいばあつ子事務所

〒851-2130 西彼杵郡長与町まなび野3-6-5 メゾンR102

TEL・FAX 095-887-3131

ホームページ <https://aibaatsuko.jp>

メールアドレス aaiba@aatsuko.jp

<http://www.facebook.com/atsuko.aiba>



LINE
公式アカウント



YouTube
公式チャンネル



Instagram
公式アカウント



2月定例県議会報告

令和6年2月定例会が、2月20日(火)から3月15日(金)まで開催された。「令和6年度長崎県一般会計予算」総額7348億4900万円などの73件の議案すべて賛成多数で可決されました。



あいばあつ子 県政へ問う

(予算総括質問)
2024年3月4日



←予算総括質疑の動画が
こちらからご覧頂けます

(1)新しい長崎県づくりビジョンのPR

Q ビジョン特別事業の予算では、合計1億7,700万円が計上されている。

大石知事は、令和6年度の予算の説明で、「『新しい長崎県』づくりについて、*シビックプライドを醸成する新しいコンセプトや施策を掲げ、国内のみならず、世界に存在感を示し、選ばれる長崎県づくりに力を注ぐ」とのことであった。

このビジョンを県民へどのように浸透させるのか、知事の熱い、熱い考えを伺う。

A 今年度はイラストを交えた冊子を作成し、県のホームページにも掲載した。SNSなどの広報媒体やWebサイトやあらゆる機会にビジョンの内容を発信する。県民の皆様と直接対話する機会を設けて、どう取り組みれば長崎県を自慢したいと思っただけなのかといった議論を重ね、県内外への浸透を図っていく。

※シビックプライドとは、「都市に対する市民の誇り」という概念で使われることが多い。日本の「郷土愛」といった言葉と似ているが、単に地域に対する愛着を示すだけではない。「シビック(市民の/都市の)」には権利と義務を持つて活動する主体としての市民性という意味がある。

Q 知事は、情報発信をしている中で、世界的なスター選手に本県のPRに協力してもらうために、ロナウド選手とも面会し、トップセールスについては、海外を積極的に訪問されている。トップセールスの効果や、その情報発信について具体的な知事のことを伺う。

A 広報に関する戦略等々は、より効果的、どうやれば伝えるべき相手に伝わるのか、そして、行動変容にいかにつながるのかといった視点を大切にしながら、今後、検討していきたい。

(2)児童生徒の多様な学びの場や居場所の確保

Q 今回、県総合計画を推進する事業の中で、児童生徒の多様な学びの場や居場所の確保について、3,300万円計上されている。

その中で、現在、既に居場所として活動しておられるフリースクールや子ども食堂など、民間やNPO法人とどう連携していくのか。また、県内に3,000人の不登校生がいて、今回の予算では700人分を予定しているとの事。まだまだ居場所的には不足している。新しい居場所を、どのように考えているのか。

A 学校教育の現場では、令和6年度から、自分のクラスに入りづらさを感じる子どもたちの学びの場、居場所となる校内教育支援センターの設置を考えていて、この事業で学校外との相談支援機関等

との連携を推進することも念頭に置いている。

具体的には、子ども食堂やフリースクールなど、学校外のような民間団体等と連携した取組を推進する市町に対し、この校内教育支援センターの設置に必要な経費の一部を支援する。

(3)離島留学制度の改善

Q 離島留学制度の改善ということで、今回、7,400万円の予算が計上されている。11月定例会の質問の答弁で、里親宅ごとに生徒への対応や食事等の生活環境面も大きな差が生じないように、研修等も含めてやっていきたいとの事であった。今回の改善の中で食事に関する改善については具体的にどのようにしていくのか。

A 今後、議会のご意見も踏まえて3月中旬に公表したいと考えている。

改善策の中では、食事に関する里親の役割として、食品衛生やアレルギーに留意しながら、原則3食提供することや、食費等に充てる費用の月額を改めて定める。また、新たな取組として里親に食事の栄養管理に関する研修会を実施する。



Q 子ども食堂や子どもが駆け込める場所が必要と思うが県の考えを伺う。

A 子どもたちが駆け込める場所というのは必要と考えている。改善策の中で、地域社会や大人とのつながりを強化し、地域全体で見守る環境づくりを行う予定。

具体的には、各地区の民生委員の方々による日常的な声かけ、地域行事への参加などを通し、地域住民や身近な子どもの居場所とのつながりを深めることとしている。困った時に、学校と里親宅以外に駆け込めるような大人との信頼関係を築く取組を行うことで、離島留学生在が安全で安心した生活を送れるように努めていく。

Q 「生徒やしま親に対するサポート体制を強化する」となっているが、保護者の方から、なかなか説明が少ないと相談を受けている。オンライン開催でも説明していただきたい。今後の保護者に対する説明や、保護者に対する相談体制はどのようにしていくのか。

A 改善策で来年度の早い時期に、保護者を対象とした説明会を開催する。

令和7年度以降の入学生の保護者に対しても、支援や相談体制を丁寧に説明したいと考えている。また、令和6年度から離島留学支援員を増員し、保護

者からの相談には、支援員を窓口とし現状よりもきめ細やかに対応していく。

併せて、保護者と里親、学校関係者が意見交換を行う場を設定し、相互の信頼関係を築いて、保護者の不安解消に努めていく。

(4)ながさきピース文化祭2025に向けた準備

Q 本県初となる「ながさきピース文化祭2025」の開催で、ロゴも、平和の象徴ハトと文化を育む未来へつなぐ手に決まり、着々と準備を進めていることと思う。1億3,469万2,000円の予算になっているが、具体的な配分を伺う。

A 令和6年度予算で1億3,500万円を計上。開閉会式にかかる準備等の事業費や旅費、会議費

農水経済委員会の主な審査内容

産業労働部

航空機関連産業は、現在20社以上が参入し、サプライチェーンが拡大している。さらに、製品の安全性確保と、信頼性向上に関する国際規格「JISQ(ジスキュー)9100」の取得企業数が見込みを含め14社と、九州内でもトップの数を誇り、平成30年の航空機産業クラスター協議会立ち上げから5年間で、九州を代表する産業集積県として注目されている状況である。

農林部

令和4年度の自営就農者の実績及び定着率は、県下全体で277名、直近の5年間では合計1272名が就農し、そのうち、99.7%が定着している。



総務委員会の主な審査内容

企画部

ドローン活用は、危険な崖崩れの現場などでも侵入することが可能であり、離島が多い本県では他県に比べても様々な分野で期待できる。

メタバースは、仮想空間であるため、企業のPRイベント会場などを簡単に準備することができ、離島や海外からも簡単に参加することができる。また今後、県民が参加するイベントや個別相談など、コミュニケーションツールとしても活用を拡大していく。

地域振興部

人材確保につながるコミュニティ交通への転換支援は、現在、乗車人数が少なく維持が困難なところは、デマンド化や車両の小型化によって、コミュニティ交通への転換に取り組む市町に対して、その導入経費を県が支援する。大型バスの運転士を持続的に確保していくことを目的とする。

などの活動経費として約8,500万円、情報発信にかかる経費として約5,000万円を計上している。

Q 機運を盛り上げていくための情報発信として具体的な内容を伺う。

A 令和6年度は、市町や文化団体等と連携し、専用ホームページやSNSでの情報発信、イベント実施のほか、PR動画の作成、屋外広告の掲出等を予定している。取組は、スペシャルアンバサダーの「さだまさし」氏や、発信力を有する複数のアンバサダーの方々に協力いただき、広く民間からアイデアを募集し、活用するなど、より効果的な情報発信に努めていく。



環境生活建設委員会の主な審査内容

県民生活環境

性暴力被害者支援「サポートながさき」は、常勤の専門相談員を増員し、これまでできなかった夜間の緊急時の対応が可能となる。



土木部

県営住宅入居申込時の連帯保証人は、現在、連帯保証人を確保できない方にも、申請窓口において免除も可能である。

「長崎県手数料条例の一部を改正する条例」について

セーフティネット住宅登録制度が平成29年に創設され、今回、その登録手数料を廃止する。登録手数料が有料であることによって、登録を見送られた住宅が約3,300戸ある。無料化により、これらの登録が確実に見込まれる。

また、登録申請者へのメリットとして、オンライン申請で登録が可能となり、登録住宅に対して、国が、改修費用の3分の1を補助するため、バリアフリー化や内装設備の充実が図られる。

